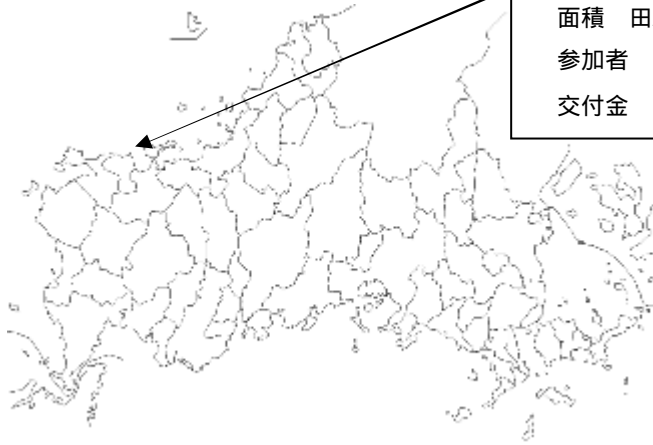


# 集落協定 かわら版 (第16号)

(平成18年7月3日 山口県農林水産部農業経営課)



長門市油谷東後畑集落協定

面積 田/急傾斜40.0ha

参加者 24人

交付金 839万円

県消費者団体連絡協議会事務局長で、県中山間地域等直接支払制度検討会の委員でもある小林眞由美さんが、長門市油谷東後畑集落協定の取材をしました。

## 棚田の担い手組織 育成に取り組む

・・・長門市油谷東後畑(ひがしうしろばた)  
集落協定・・・

集落協定の代表者池永達夫(いけなが たつお)さん(53歳)と役員の三村建治(みむらけんじ)さん(60歳)をたずねました。

第二期対策の始まりですが、どのような印象ですか。

集落協定には20戸が参加しています。第二期対策の初めに地域の関係者が全員参加するように考えたのですが、高齢者で、継続を断念したものや5年間の自信がなかったりで、数名の不参加者が出ま

した。そのときには、協定には営農組合や受委託のしくみもできていませんでしたので、最終的に耕作を継続する農家だけが協定に取り組んだ形です。やはり、初めの合意が大切と考えたのです。



(東後畑集落の棚田の様子。)

左：委員の小林さん、中央：協定役員の三村さん、右：代表の池永さん)  
棚田で有名な場所ですね。

集落は、棚田百選にも選ばれた場所です。田植えが始まる5月～7月にかけては、アマ～プロまで写真を撮りに来ます。

農業の現状はどうか。

高齢者も増えており農作業ができない人が出てきています。その一方、個別完結の農家があります。また、当地は半島の棚田地帯で水の問題もありますので、個々の農家が規模拡大するのは難しい面もあります。協定参加の個人の家には、各人の機械がありますから、すぐに、作業の共同化、機械の共同化とかも難しい状況です。

マスタープランの内容は。

協定は、集落を基礎とした営農組織育成を目指しています。将来的には、この組織を育成して農地を集積し、法人設立も考えています。

5年間の目標は。

A要件で、機械・農作業の共同化と担い手への農地集積を目指すよう協定に決めました。

目標に対する取り組みは。

協定の面積は約40haありますが、第一期対策では協定の農地を大きく囲むように電気柵の設置をやってきました。

第二期対策では、電気柵の太陽光発電機補充と修理を考えています。鳥獣対策を行ったことで、耕作放棄地の対策についても話し合うようになってきました。

耕作放棄地が増えるとみんなが安心して農業に取り組むことができません。それにここは生活の場でもあるのです。そこで、協定の役員が話し合っ、耕作放棄地を出さないために、共同で取り組もうということになったのです。

どんな活動をしているのですか。

いま、協定参加者の内、動ける15人で活動を始めました。高齢化などで耕作できなくなり、協定に参加しなかった農

地の管理に取り組み始めました。

管理ができるようになった農地を、協定に追加しています。しかし、管理しただけではお金になりません。交付金が無くなったら終わりと言うことになってしまいます。そこで、今年から、稲の作付を始めました。



(集落協定で整備したイノシシの檻と今年、営農組織で耕作をはじめた水田) 機械は。

個人が持っている機械を使っています。トラクター、草刈り機などそれぞれの機械の利用料金を決めております。

組合の設立も考えているのですか。

今は、とにかく作業をやってみようというところですよ。今年、1.3haくらい田植えができほっとしているところです。形だけの組合の設立ならいつでもできると思いますが、やはりみんなが納得しないといけないと考えています。

集落リーダー事業にも登録をすませました。

役員さんはたいへんですね。

毎週土曜日に役員が集まって話し合いを続けています。世話をする者は初めは大変でした。でもそのかいがあって、役員みんなが、この制度を使って地域をよくしていこうという気持ちになってきま

した。今後は、集落協定で耕作が難しくなる水田全体に広げていきたいと思っています。

棚田で、急な斜面もありますが困っていることはありませんか。

協定内は段々の棚田で農道、水路は未整備ですから、農機具、農作物の移動や水田管理などに労力が多くかかり困ります。

新しい施設が整備されたとか。

そうですね、棚田が有名ですから都市から来られる方が多いので、トイレ、駐車場の問題があり困っておりました。ところが昨年、県の事業でトイレ、駐車場、作業道の整備ができました。都市から来られる方も便利になりましたし、地元にとってもよかったです。

消費者に望むことは。

今、地元の女性グループの活動を活発にして、消費者との交流を進めていきたいと考えているところです。

実は、地区の保育所が廃止されました。

この施設には、炊事をする施設もありますので、農産物の加工などするところではないかと話しているところです。

棚田を保全するNPOもあるとか。

NPO「油谷棚田景観保存会」(代表；村岡 富士夫さん)は協定の対象地域の外で活動をしています。今後は、NPOとの協力も大切です。しかし、まだ協定の方の受け入れができないと思います。営農組合もそうですけど、みんなの気持ちと一緒にしないと長続きしないと思っています。まず集落協定の活動を充実して、受け入れ態勢を整えていきたいと思っています。

～～東後畑集落協定をたずねて～～

小林 真由美

「わあ、すばらしい」東後畑集落のほぼ頂上から棚田を見下ろした瞬間、思わずつぶやきました。

当日は降り続いた大雨がやっと上がったものの、どんよりとした雲に覆われて視界の悪い日でした。それでも海に続く美しい棚田と、遠くの岬や風力発電の風車がゆったりと回るのが見えました。お天気がよければさぞかし良い眺めでしょう。このような所で農業をされる方々はきっと大らかな方が多いのではないかと思います。

しかし、この棚田を維持していくために、さまざまなご苦勞をされていることもまた想像できます。いろいろな事情があって耕作ができない田はすぐ荒れてしまいます。それらを、放置せず、集落協定の参加者が協力して毎年少しずつ植えていこうと努力されている取り組みの様子が伺えました。水の問題など、私たちにはわからない細かな事情もあるかと思われそうですが、田を植えてみたいという消費者を募集してみるのもひとつの試みとして有効なのではないでしょうか。

集落協定のメンバーも代表の池永さんをはじめ若い方々もいらっしゃるようで、今後は女性のメンバーに呼びかけて消費者との交流の場を考えてみたいとのこと。この地域は全国棚田百選に認定され、駐車場やトイレなども整備されていました。

雄大な景色と田んぼの様子を見に、また訪れてみたいと思いました。

～ 小林さん、お忙しい中の取材、ありがとうございました。

～～～ 編集後記 ～～～

棚田地帯の東後畑集落で体制整備の取り組みが進んでいました。

井上、日高

県農業経営課 電話 083-933-3350

